

課題番号	LZ005
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)  
実施状況報告書(平成25年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	看護卒後教育による mid-level-provider 育成と医療提供イノベーション
研究機関・ 部局・職名	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授
氏名	井上 智子

1. 当該年度の研究目的

<p>①3年間にわたって継続した5回のシンポジウム、8回セミナー成果を統合し、本邦における高度実践看護師のあり方と、教育プログラム(案)を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年11月に第5回総括シンポジウム「高度実践看護師を核とした新たな医療提供システムへの提言」を開催する。</li> <li>・学外戦略会議、米国との会議を引き続き実施していく。</li> <li>・検討成果を、機関誌(Advanced Practice Nursing)の年2回の発行他、ホームページ等で発信していく。</li> </ul> <p>②専門看護師が mid-level provider(高度実践看護師)へと移行するための教育(e-learning と高機能シミュレータによる演習)の第2期生の募集とオンライン教育を実施し、修了生を引き続き輩出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通科目(3科目)の第2期生の受講者公募、人選、IDパスの発行等を行う。</li> <li>・共通科目(3科目)のオンライン教育を実施する。</li> <li>・オンライン教育の評価方法を開発し、評価を行う。・共通科目(3科目)修了者のための演習内容・方法について、特に本邦での教育を継続するための、Trains-trainers Approach 法による教育方法を検討する(米国大学との共同研究で)。</li> <li>・共通科目(3科目)修了者の中から希望者を選定し、招聘講師による高機能シミュレータによる演習を実施する。</li> <li>・シミュレータ教育受講生等の評価方法を検討し、評価を実施する。</li> </ul> <p>③高度実践看護師を軸とした医療提供システムの検討として調査研究結果を分析・検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先駆的実践を行っている専門看護師への聞き取り調査についてのデータ分析。</li> <li>・裁量権拡大に関する専門看護師の認識と実態に関する全数調査結果の分析。</li> <li>・「継続したシンポジウム・セミナー」の成果分析を行う。</li> <li>・得られた分析結果をもとに、APNを軸とした新たな医療提供システムのあり方の検討と提案。</li> </ul> <p>④「国民との科学・技術対話」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方都市開催(大阪)の学会と同時開催で「国民との科学・技術対話」を、また専門職も含めた社会への情報発信として、シンポジウム、フォーラム等を企画し、実施する。</li> </ul>
--

2. 研究の実施状況

①各種会議、シンポジウム、セミナー開催により、高度実践看護師の教育のあり方等について検討し、各種成果を公表

- ・国際シンポジウム1回(第5回目)、学内外戦略会議12回(通算33回)、日米会議5回(通算13回)開催し、成果は機関誌ならびにホームページ上に掲載した。
- ・機関誌(APN :Advanced Practice Nursing)を予定通り年2回(通巻4・5号)発行し、全国の看護系大学(216校)、氏名公表の専門看護師全員に配布した。

②高度実践看護師共通科目B(3科目6単位分)のオンライン教育(第2期生)の実施

- ・経歴、応募動機等から、オンライン教育2期生として185名を選抜、IDを発行しオンライン教育を実施した。受講状況については、随時HP上に公表し、修了者には修了書を発行した。
- ・国際会議で招聘予定教員との打ち合わせを行い、Trains-trainers Approach法による日本側教員の選考、ならびに担当内容を定め、事前準備を行った。
- ・2名の招聘講師、5名の日本側教員、6名のTAを配置し、2期生の受講生中から受講修了者30名を選抜し、高機能シミュレータを用いて2月12日～14日までの3日間の演習を実施し、終了後は参加者・実施者側からの評価を行った。
- ・オンライン共通科目Bの評価について実施後評価を行い分析、発表した。

③新たな医療提供システム構築のための「高度実践看護を行っている専門看護師への調査研究結果」「継続的なシンポジウム・セミナー成果」から見る高度実践看護師を核とする新たな医療提供システムのあり方

- ・専門看護師12名への聞き取り調査を終了、データを分析し結果の一部「キュアとケアを融合した看護ケアの内的構造」の解明に取り組みその成果(融合の4各要素:治療と生活を結びつけていく、患者に合わせた治療を作り出す、キュアを起点とした新たなケアを生む、従来のキュアの形を変化させる)について公表(投稿中)、残りのデータについても分析、投稿準備を進めている。
- ・新たな医療提供システムに関する専門看護師(氏名公表者985名)への全数調査を行い、234名(回答率24%)のデータを得た。診療の補助行為に対する看護師の裁量範囲の実態(現在の看護師の裁量範囲・将来的な看護師の裁量範囲)、高度実践看護師・専門看護師に期待される裁量権拡大の認識について明らかにし公表した。
- ・「シンポジウム・セミナー成果」からは、新たな医療提供システム構築のためには2つのルートがあること  
①先駆者集団が必要なケア・キュアを自ら創出・実施する、②(ジェネラリストナースによる)看護チームへの導入口であることを当初から認識し実践・定着を目指すことと、看護職がすべきその内容としては、  
①患者の苦痛・不安の軽減に繋がる、②迅速性が確保される、③キュア(医療処置)の質向上が見込まれる、④実施によって看護師の実践能力が向上する医療処置を選択し、医療機関・在宅等において導入できるよう設計図を描く必要がある。

④「国民との科学・技術対話」等の実施状況

- ・平成25年12月7日に大阪国際会議場において、一般市民に向けて「広がる看護師の仕事2013」を開催した。その他、国際シンポジウム1回、米国のNurse Practitioner養成教育課程の教員2名を招聘し、オンライン教育修了者の中から書類選考による受講者を決定し、3日間のヘルスアセスメント演習を実施した。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計8件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計1件 ・瀧口千枝、井上智子、佐々木吉子：人工呼吸器装着患者における看護師の多職種チーム調整機能の構造、日本クリティカルケア看護学会誌、2013、9(3):1-12.</p> <p>(掲載済み一査読無し) 計7件 ・井上智子：APN大学院教育での病態、薬理、フィジカルアセスメント科目の導入における課題、看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(事業主任研究者、連携会員)、日本学術会議看護分科会・日本看護系学会協議会、2013年5月、日本学術会議看護分科会 HP 掲載 ・前田留美、丸光恵、井上智子：第1期オンライン教育を終えて、APN (Advanced Practice Nursing)、2013、4:2-5. ・井上智子：専門看護師の軌跡と看護職の更なる躍進に向けて、APN (Advanced Practice Nursing)、2014,5:10-15 ・瀧口千枝、佐々木吉子、前田留美、井上智子、丸光恵、川本祐子：2012年度3P科目オンライン教育プログラムの評価—受講者アンケート調査(修了時)より—、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:16-22. ・川本祐子、井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美：裁量権の拡大に関する専門看護師の認識調査の概要、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:23-27. ・井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美、川本祐子：国民との科学・技術対話「広がる看護職の仕事2013」、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:30-32. ・井上智子：本事業の終盤を迎えて、APN (Advanced Practice Nursing)、2014,5:2-3. (未掲載) 計0件</p>
<p>会議発表 計6件</p>	<p>専門家向け 計4件 ・Yuko Kawamoto, Tomoko Inoue, Mitsue Maru, Yoshiko Sasaki, Rumi Maeda:Perceptions of Clinical Nurse Specialists on the Expansion of Nurse Discretion in JAPAN, Manila, Philippines、2014.2.20～21、East Asian Forum in Nursing Scholars (EAFONS) ・井上智子：急性期看護における連携のあり方を考える「看護教育者の立場から」、第44回日本看護学会—成人看護I—抄録集、和歌山、2013年10月24日、日本看護学会 ・井上智子：チーム医療と看護師の役割、第2回日本感染管理ネットワーク学術集会、プログラム・抄録集、大阪、2013年5月24日。 ・井上智子：ケアとケアが融合した集中ケア看護、第41回日本集中治療医学会学術集会プログラム・抄録集、京都、2014.2.28</p> <p>一般向け 計2件 ・井上智子：看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(ポスターセッション)、FIRST EXPO 2014、ベルサーレ新宿グランド、2014.2.28 ・井上智子：広がる看護職の仕事 2013 「国民との科学・技術対話」、大阪、2013.12.7</p>
<p>図書 計2件</p>	<p>・看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業機関誌 APN、通巻4号、2013。 ・看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業機関誌 APN、通巻5号、2014。</p>
<p>産業財産権 出願・取得状況 計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件  (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>活動報告、平成22～25年度 独立行政法人 日本学術振興会 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)「看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション」、 <a href="http://www.adnr.jp/">http://www.adnr.jp/</a> 看護卒後教育による MLP 育成(twitter)、@apnjp 看護卒後教育による mid-level provider 育成(face book)、<a href="https://ja-jp.facebook.com/adnrjp">https://ja-jp.facebook.com/adnrjp</a></p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>第33回日本看護科学学会学術集会と同時開催で、最先端・次世代研究開発支援プログラム「広がる看護職の仕事-2013」日本における高度実践看護師教育の具現化を目指して」と題して、2013年12月7日、大阪国際会議場(第9会場)において一般市民、医療従事者、看護教員を対象として実施した。マスコミ関係者(看護系2社、一般1社)、医療従事者、看護学教育に携わる者が140名程度参加し、本事業内容の報告を</p>

様式19 別紙1

	<p>行ったが、フロアからは厚生労働省検討会や、看護系大学院で養成されている専門看護師育成との関連性について質問が出た。また本事業を実施することに対し、早期の教育開始をと事業の継続を望むなど、本邦において高度実践看護師育成が急務であることが改めて浮き彫りとなった。</p> <p>・井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美、川本祐子：国民との科学・技術対話「広がる看護職の仕事2013」、APN（Advanced Practice Nursing）、2014,5:28-29.</p>
<p>新聞・一般雑誌等掲載 計0件</p>	
<p>その他</p>	

4. その他特記事項

特になし。

実施状況報告書(平成25年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	82,000,000	68,050,000	13,950,000	0	0
間接経費	24,600,000	20,415,000	4,185,000	0	0
合計	106,600,000	88,465,000	18,135,000	0	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	4,750	13,950,000	0	13,954,750	13,809,644	145,106	
間接経費	0	4,185,000	0	4,185,000	4,185,000	0	
合計	4,750	18,135,000	0	18,139,750	17,994,644	145,106	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	446,532	事務用消耗品など
旅費	1,036,618	外国招聘旅費(実技演習講義)、シンポジウム講演招 聘、インタビュー調査旅費など
謝金・人件費等	2,463,227	雇用経費、会議出席謝金、原稿執筆謝金など
その他	9,863,267	オンライン維持・保守費用、会議費、教材作成委託費 など
直接経費計	13,809,644	
間接経費計	4,185,000	
合計	17,994,644	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		